

四日市版コミュニティスクール報告書（平成29年度総括）

四日市市立三重平中学校

校長 柴田 一

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

地域の教育力を学校運営及び教育活動に活かすことができるよう保護者や地域のみなさんが主体的に参画・支援できる仕組みを整え、地域・家庭・学校が連携・協働し、学校づくりビジョンに掲げる「笑顔いっぱいの学校」の実現を目指します。

また、四日市版コミュニティスクールとしての取り組みを進めることにより、三重西地区・神前地区にまたがる本校の校区に、地域・家庭・学校が一体となって子どもたちの健全育成を図るための子ども支援ネットワークの構築に努めていきます。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

① 「学習意欲の向上」の取組

○地域子ども教室の開催

本校の課題の一つである学習環境が整わない子どもたちに放課後の学習支援の場を提供し、学習習慣の定着を図り、学習意欲の向上を目的とする「地域子ども教室」を開設しています。

- ・三重四丁目集会所での「地域子ども教室」
中学校の職員会議・研修会などが行われ部活動がない水曜日 15:00～17:00
- ・中学校学習室での「放課後教室」
学校行事がない平日 週2～3日（不定期）
16:00～17:00
- ・中学校の図書室・和室、三重四丁目集会所での「夏休み地域子ども教室」
- ・三重四丁目集会所での「冬休み地域子ども教室」
地域子ども教室は、今年度は2・3年生を対象とすることとしました。学習の進め方としては、子どもたちが自分のやりたい教材に取り組み、スタッフが質問に応じながら学習の指導・支援を行う形態をとりました。



5月GW明けから3月上旬まで、参加生徒数のべ500名、スタッフの数のべ300名で、開催回数56回という実績でした。

今年度は3年生の参加が少なかったものの、その分、スタッフと生徒一人ひとりのつながりが深くなり、まさに絆の育まれる取組となったことに大きな意義があったと考えています。

子ども教室が、単なる学力UPの場ということだけではなく、まさに生徒たちの居場所となり、スタッフとの交流から心が解放されていった子どもたちを目の当たりにして、改めてスタッフのみなさんが多様な子どもたちを受け入れながら、学習の指導・支援を進めていただいたことに感謝します。

○ 漢字検定の取組

- ・三重平中学校学習室での漢字検定（8月、1月）

漢字検定は、比較的容易に取り組める資格試験であることから家庭での学習習慣の定着をねらい、実施して3年目を迎えます。中学校3年生に限らず、小学校5年生から保護者にも対象を広げています。

② 「自尊感情の高揚」の取組

三重平中学校では、これまでも様々な機会を捉えた保護者・地域との交流を進めてきました。しかし、小学校のように授業時間内の学年・学級単位での地域との交流は大変難しい状況にあります。

実施計画を作成する第1回の委員会の中で、委員から「専門委員会や部活動などの小さい単位で交流できる活動から始めたらよいのではないか。」との意見が出され、今年度もこの方針にて地域との交流を進めることとしました。

○ 高齢者との交流

福祉委員会は活動の一環として、神前地区社協主催の「より曾井サロン」、ライフサポート三重西が主催する「サロンスマイル」に参加し、夏休みに交流を行っています。

高齢者との交流活動では、一緒に歌やゲームを行ったり、食事会の配膳のお手伝いをしたりしました。子どもたちは、高齢者との交流を楽しみ、自己有用感を感じられる取組となりました。



○ 地域行事への参加

毎年12月に神前地区社協の主催する「大日山ふれあい事業（里山保全活動）」に野球部と剣道部がボランティアとして参加しています。



また、三重西地区の活性化と地域の一体感の醸成を図るため、平成26年8月に「三世代交流フェスタ」が企画され、三重平中学校PTAも毎回参加しています。三世代交流という趣旨から本校PTAはこのイベントの出店するブースの運営にボランティアとして参加する子どもたちを募集し、10名の子どもたちが事前の準備から一緒に進めました。

子どもたちは、販売活動を通して、地域の方々との交流を楽しむことができました。地域からは、中学生の頑張りにイベントが活気づいたと喜んでいただきました。



○ 地域の協力を得た炊き出し訓練

土曜授業として、地域防災リーダーの方に来ていただき、炊き出し訓練を行いました。アルファ米を三重西地区自治会から提供していただき、豚汁を生徒たちで分担し、つくることができました。

大きな災害が発生した時に、地域の働き手として中学生の活躍が期待されており、三重西地区の防災リーダー会、神前地区社協青少年部等の地域のみなさんと一緒に活動することとなります。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

昨年度、運営協議会を組織し、地域で活躍されているみなさんに委員となっていたことで、子どもたちの地域行事への参加の機会が増えました。

委員のみなさんが学校と地域をつなぐコーディネーター的役割を担っていただくことで、三重西地区・神前地区でまたがる本校の校区に子ども支援のネットワークづくりが進んだように思います。

本年度の生徒アンケート（全学年）「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いに対して『あてはまる』『概ねあてはまる』と回答する生徒は、47.8%と、昨年度比で、1.2ポイント高いことから、委員会や部活動の単位ではあるものの、地域との交流機会を得たことは、参加する子どもたちに「地域に貢献している」ことを感じさせ、自己有用感を高めさせることができたと考えます。

本年度の生徒アンケート（全学年）「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対して、『あてはまる』『概ねあてはまる』と回答する生徒は、74.1%と、年々、その割合が増加していることや、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の問いに対しては、『あてはまる』『概ねあてはまる』と、答えた生徒の割合が94%あり、高い値を示している。これらの事から自尊感情育成の取組の成果と考えます。

3 今後に向けて

「学習意欲の向上」への取組として、「地域子ども教室」の定期的開催に努めてきました。子どもたちの学力や学習意欲の向上だけでなく、この教室での子どもたちと地域・のスタッフとのかかわりは確実に「つながり」を生み出していると実感しています。

三重四丁目集会所での教室が、子どもたちの「居場所」としての役割を担うことも大きな意味があり、今後も定期的な開催を考えています。また、学習ボランティアの人数が増え、充実したスタッフになったこと、今年度の3年生の参加人数が以前より少なかったことから、次年度も2年生にも参加できるようにしていきます。

「自尊感情の高揚」への取組については、子どもたちは、これまでも小学校の頃から地域との交流・地域からの支援を受けてきており、地域みなさんに自尊感情を支えていただきながら成長してきているように思います。中学校は、授業時数の確保や部活動などにより、地域との交流の制約は大きいですが、「できるところから」「できる形」で、今後も無理なく地域との交流を進めていきたいと考えています。

別紙B

平成29年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立三重平中学校

委員長 根来 進

校長 柴田 一

月	日	協議会の開催	活動内容（学校行事関連含む）
4	14	第1回運営協議会開催文書配布	ソーシャルスキル・トレーニング研修（4月12日） 土曜授業（4月15日）部活動参観
5	17	第1回運営協議会	地域子ども教室開始（5月12日～） 土曜授業（5月20日）教科授業
6	9	第2回運営協議会	親子除草（6月4日） 土曜授業（6月17日）授業とPTA懇談会
7			グリーンベルトの緑化活動 夏季休業中の補充学習会の支援（～8月）
8			三世代交流フェスタへの参加（8月12日） サロンスマイルとの交流（8月22日） 漢字検定①（8月22日）
9	8	第3回運営協議会	土曜授業（9月16日）同和問題 講演会
10			城山祭への参加、 土曜授業（10月21日）中体連新人戦
11			地区文化祭参加、神前地区（11月5日） 三重地区（10月29日） 土曜授業（11月18日）PTAバザー
12			大日山ふれあい事業（里山保全）への参加 （12月3日）
1	19	第4回運営協議会（学校関係者評価）	土曜授業（1月20日）新入生体験講座 漢字検定②（1月27日）
2		第5回運営協議会（学校関係者評価）	私の主張大会（公開） 土曜授業（2月17日）炊き出し訓練
3			グリーンベルトの緑化活動